

事業名	平成 26 年度能登キャンパス委託調査研究事業 「能登町・町野荘と珠洲市・若山荘の歴史的警官と生態環境に関する調査」	
実施主体	石川県立大学 柳井清治教授、同大学院 鷲津隼平、金沢学院大学 東四柳史明教授、同大学院 寺口学	
活動形態	開催場所	能登町
	活動人数	—
	期間	平成 26 年 6 月 10 日～平成 27 年 3 月 31 日
活動概要	<p>&lt;活動目的&gt;</p> <p>能登町には、中世（平安後期～戦国）において、かつて「町野荘」「若山荘」と呼ばれた荘園が存在し、地区内には当時から受け継がれる文化財や伝承、景観が多く所在している。本事業では、それらを後世に伝え、能登の里山里海として世界農業遺産に指定されている奥能登の歴史・文化を守り伝え、地域振興への活用策の提案、住民への周知などを目的とする。</p> <p>&lt;方法&gt;</p> <p>中世・近世の史料（古文書・古記録）の収集および、現地での聞き取り調査（地名・灌漑・民俗等）、遺跡・石造物の踏査、灌漑施設・水田に関する調査、および景観復元に関しては 1963 年の航空写真(国土地理院)を使用し、レーザーデータから作成した DEM を重ね、これらを GIS ソフト Arc scene 上に取り込み、3D による農地景観の復元を試みた。</p> <p>&lt;活動概要・結果&gt;</p> <p>① 調査・研究情報の公開</p> <p>情報公開は、これまでに広報誌の発行およびホームページを利用して行い、ある程度評価を得ている。平成 26 年度は、さらに具体的な情報を地元住民へ提供するため、大字よりもさらに小さな範囲（水田や谷など）を示す通称地名を集録した「地名地図」を地元公共施設へ寄贈・公開することとした。今回は、柳田地区内のうち地図が完成した 17 地区分について、地元図書館および公民館へ寄贈した。地図は、学術面のみならず農業施策・地域振興にも利用・応用することが可能であり、住民からも好評を得ている。このほか、地元住民を対象とした発表報告会を 2 回、現地巡見を 1 回開催した。</p> <p>② 観光・学習への活用（モニターツアー・報告会）</p> <p>調査研究成果を観光や学習ツアーとして活用するため、住民を対象とした現地巡見と発表報告会を実施した。現地巡見（モニターツアー）では「中世・荘園景観が見える」をテーマに、柳田地区内で中世の景観が残されている場所や、寺社、灌漑施設、和紙生産保存団体の工房などを訪れた。その後、ツアー参加者から寄せられた意見をもとに、具体的なツアープランの策定および、これまでに作成してきた観光マップの修正と灌漑に特化したマップの新規作成に取り組んだ。</p>	

③ 農村景観の復元に関する取組

柳田地区内における歴史的な調査および灌漑施設・水田等に関する調査を踏まえ、石川県立大学柳井研究室が 3D で耕地整理以前の農村景観の復元に取り組んだ。対象地は、中世の景観が残されている事が立証された寺分・五郎左エ門分、中世の城跡が存在し耕地整理以後も棚田状の地形が残される五十里、溜池を利用し棚田状の水田を灌漑している笹川の通称「溜水」(タムシヤ)の3地区である。また圃場整備以前の景観が残されていた1963年の航空写真(国土地理院)を使用し、棚田状の地形、民家の位置を抽出し、レーザーデータ(北陸電力提供)から作成したDEMを重ね、これらをGISソフト「Arc scene」上に取り込み、3Dによる農地景観の復元を試みた。

④ 若山荘木郎郷に関する調査

柳田地区での調査を踏まえ、同町内浦地区にある若山荘木郎郷調査を開始した。地名調査では、九里川尻川流域の10集落を対象に実施し、遺跡や寺社の所在地を含めて掲載した歴史地名地図を作成した。

事業名	平成 26 年度能登キャンパス委託調査研究事業 「能登の里海を活かした海洋教育の可能性調査」	
実施主体	金沢大学 鈴木信雄准教授	
活動形態	開催場所	能登町
	活動人数	—
	期間	平成 26 年 6 月 10 日～平成 27 年 3 月 31 日
活動概要	<p>&lt;活動概要&gt;</p> <p>海洋教育の調査は順調に進めることができ、海洋教育を実施するために、中心となる組織を築くことができた。即ち、金沢大学の臨海実験施設を中心に、金沢大学能登オペレーティングユニットと学校教育学類に協力・支援していただき、さらに能登町教育委員会、のと海洋ふれあいセンター、石川県立能登少年自然の家、能登町立小木小学校との連携により、一般社団法人能登里海教育研究所を平成 26 年 11 月に設立することができた。能登里海教育研究所のキックオフフォーラムとして、能登海洋教育フォーラム（日本動物学会中部支部大会の関連フォーラム）を 11 月 22 日に開催した。平成 27 年度から、能登町立小木小学校を中心に、海洋教育を実施する予定である。以下に、①一般社団法人能登里海教育研究所が実施予定の事業、②能登海洋教育フォーラムについて報告する。</p> <p><b>【一般社団法人 能登里海教育研究所】</b></p> <p>本事業では、能登町教育委員会と連携して、初等教育課程における体系的な海洋教育カリキュラムを開発し、能登町で開発したモデル教育を石川県に展開して、最終的に日本海のモデルとして全国展開することを目的とする。これを実践するため、(1)小学校における体系的海洋教育カリキュラムの開発、(2)実践支援体制の整備と人材育成、(3)海洋教育普及推進の戦略の開発と提示、(4)海洋教育サミットの開催、を行うことを目標とする。なお、本事業の理事には、大学関係者のみならず、漁協・商店街・旅館等の小木町民が就任しており、地元の町民と連携した事業である。この事業に対し、平成 27 年度から日本財団の助成金の支援を受け、能登町の海洋教育を推進していく予定としている。</p> <p><b>【能登海洋教育フォーラム】</b></p> <p>平成 26 年 11 月 22 日、本動物学会中部支部大会の関連フォーラムとして、「能登海洋教育フォーラム」を能登町にある「のと海洋ふれあいセンター」で開催した。本フォーラムは、東京大学 海洋アライアンス・海洋教育促進研究センターとの共催、日本財団の後援で開催した。また能登町町長（持木一茂町長）と能登町教育委員会教育長（中口憲治教育長）にご臨席していただき、平成 27 年度から実施する海洋教育への能登町の意気込みを感じることができた。東京大学の赤坂甲治先生の基調講演から始まり、能登町の海洋教育の取り組みに関する講演 5 件のほか、神奈川県三浦市教育委員会の講演があり、充実した論議が交わされた。</p> <p>午後からは、石川県のみならず富山県、福井県、三重県の高校合計 8 校から発表があり、さらに地元の能登町の柳田中学校と珠洲市の宝立中学校の 2 校がポスターで発表した。高校生がとても熱心に質問をしていたことが印象的であり、生徒らの海洋教育への関心の深さを実感できた。</p>	